



# エコトピア

第16号

## 森林(もり)から環境を発信 大滝山林組合の取り組み

大滝山林組合は、明治26年12月26日設立により彦根市と犬上三町が共有する山林の管理及び処分を共同処理してまいりました。設立当時より幾多の先人の森林に対する熱意と使命感により、犬上川水系の山々が守られてきました。

しかし、戦後の燃料改革、木材の輸入の自由化による国産材価格の低迷などにより山からの収入は、激減し、伐採跡地への森林が再生出来ない状況にまで至っています。しかしながら、今日の社会情勢、また、地球規模での環境を考えたとき重要な位置づけであると考えます。

### 環境に配慮した森林づくり

従来からの木材生産林から、環境を重視した森林の造成に努めるため、早い時期から間伐を繰り返しつつ、下層植成を促し、針広混合林化を進めて、治山、治水、水源かん養、また二酸化炭素を最大限に吸収できるように健全な森林の造成に努めています。

### ペレット製造

平成17年度に小型木質ペレット製造機(ペレタイザー)を導入し、製材機から出る、引き粉やプレナー等から出る、カンナ屑を固形化し、ストーブやボイラーで、木質エネルギーとしてご利用頂いています。

### 高取山ふれあい公園の運営

平成7年に山村と都市との交流施設として、オープンした高取山ふれあい公園ですが、年々、利用者も増加し2万人を越えるお客様を迎える様になりました。当初から環境の発信拠点とした基本理念のもと、木工クラフトをはじめ、多くの体験メニューを準備致しております。

平成20年度より森林環境学習「やまのこ」の施設指定を受け、今年度も県内の小学校4年生対象に、23校の受け入れをおこなっています。

高取山ふれあい公園ホームページ <http://takatori.tagatown.jp/>

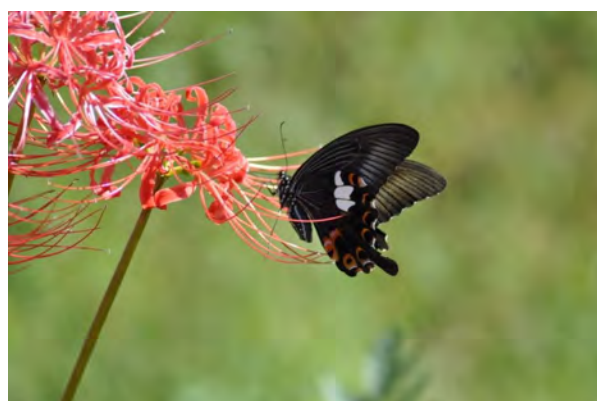


## 湖東の生き物の仲間



### イブキトリカブト(キンポウゲ科)

トリカブトは「鳥兜」で舞楽の舞人が頭にかぶる冠であり、これに花の形が似ているとしてつけられた。花全体をおおっている青紫色のものはガクで花びらはこの中にある。根に猛毒があり昔から、これを矢に塗る毒として使ったことは有名であるが反面、リュウマチ、神経痛の薬として用いられる薬草でもある。



### モンキアゲハ(アゲハチョウ科)

大型のアゲハチョウでカラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、オナガアゲハと見間違いやすいが大きな白い紋は薄暗い林の中でも良く目立つ。多くのアゲハチョウの雄は、大体一定のコースを飛び、そのコースに入っている花を訪ねて吸蜜し雌に出会う。食樹のカラスサンショウが無くなった今遅咲きのヒヨドリ花タブニキを訪れている。



### お施主様や地域の皆さんと

植林・伐採ツアー

びわ湖の森を元気にしよう  
湖東地域材循環システム協議会



### 無垢でピュアな近江の森の資源の活用



木炭・10Ω高炭化白竹炭・6μ超微粒子竹炭パウダー  
竹酢液・減農薬フカフカ  
土壌改良資材・おが粉・  
木材チップ・木材端材

多賀町中川原 139-6 Tel : 0749-48-0311  
HP : <http://www.maruto-s.com>

## 近江の森と樹を活かす家づくり・・・株式会社マルト

株式会社マルトは、多賀の山から木を出し製材する事から始まった創業80年の工務店です。

「近江の森と樹を活かす家づくり」これが 私たちの理念です。

1.生活の環境を守る 2.森林の環境を守る 3.地球の環境を守る

- 環境との共生 - を考える。それが私たちマルトの「樹」を愛し、「樹」を活かす家づくりです。

### 「使わない事で守る環境の取組み」

2003年より、環境の取組みを始め、目標の一つだったCO<sub>2</sub> 50%削減を2007年にほぼ達成しました。又、輸入木材の使用を減らす事でウッドマイルズ(輸送時に発生するCO<sub>2</sub>)の削減と共に、世界の森林資源の保全に努めています。

### 「使う事で守る地域の環境と暮らし」

現在、マルト製材部門では「使わない事で荒れていた」地元の森の木「びわ湖材」を製材、天然乾燥し、建築部門で「近江の森と樹を活かす家づくり」に活かしています。

長い年月をかけて先人が大切に良い建築材になるように育てて頂いた地元の森の木が、やっと使える大きさに育ってきました。昔より里山は人の手が入る事で守られ、伐採し、新しい木を育てる事で持続ある循環と多様な自然が生まれ、飲み水や農業・工業用水、びわ湖、CO<sub>2</sub>の吸収

ど私たちに直接関係する環境も維持されてきました。

地域の衣食住の「住」を担う企業として、本業で地域環境との共存に取り組んでいます。

### 世界にひとつ、こだわりの家づくり

… 健康で快適に長くお住まい頂くために …

風が通り、木漏れ日が降り注ぐ、まるで森の中に住んでような心地よい家は、環境にもとても良いのです。

杉、桧だけでなく 栗や桜・榎・土や和紙、びわ湖の葦、信楽の手洗い器など、地元の天然素材は化学物質を含んでいない安心な室内環境をつくるだけでなく、自然の調湿でエアコンによる環境負荷も減らせます。又、この地域で育った木は、この地域にいる菌や虫に強い成分を持っており、天然乾燥により、丈夫で長持ちする家づくりにも活かされています。太陽と風と「時間」があれば、エネルギーも削減できます。

お施主様には、近江の森の大黒柱やカウンターなども直接原木から選んで頂いたり、伐採ツアーや植林など、ご家族とご一緒に森と人のつながり、生き物と人との関わりを体験する取組みも含め、環境とデザインにこだわった「世界にひとつ」の家づくりを共に進めています。又端材は、炭にして床下の「敷炭」として活用しています。



## いかにして「つながり」を広めるのか？～環境フォーラム湖東の挑戦～

この稿を読まれている方であれば、環境フォーラム湖東がどのような経緯で設立された組織であるかはお存じのことと思います。滋賀県が2000年に策定した「琵琶湖総合保全整備計画（マザーレイク21計画）」の中に「河川流域単位での取り組み」という項があり、上中下流の各地域が一体となって、県民・事業者・行政等の主体的な取り組みが実施されるよう、流域単位ごとに「流域協議会」が13団体設置されました。その1つが「環境フォーラム湖東」です。

ところで、なぜ「河川流域単位での取り組み」や「県民・事業者・行政等の主体的な取り組み」が必要なのでしょう。皆さんは、これまで様々な環境保全の取り組みを進めてこられたと思いますが、その課程で、何度となく壁にぶつかったことと思います。せっかく地域の川をきれいにしても雨が降ったら上流からゴミが流れてきたり、護岸を自然化したいと思っても地域の住民や行政の許可がなければ勝手にはできなかつたり…環境保全をする上での時間的・空間的・人的な広がり的重要性は、誰もが認識していることと思います。

そのような背景からつくられた「流域協議会」ですが、私は昨年、県内ほぼ全ての流域協議会にヒアリングに伺い、必ずしも理想的には進んでいない協議会の現状を目の当たりにしました。うまくいっていない原因は地域により様々で、河川が短い、会員が他の活動に忙しい、メンバー間の認識の差を埋められなかったなどのケースもありましたが、最も根源的で多くに共通する課題は、「主体的な活動展開ができていない」ということでした。典型的な例としては、行政が率先して場のお膳立てをし、設立当初は予算も多く活動が進んでいたが、昨今の経済事情により予算が大幅に縮減され、これまでの活動が立ちゆかなくなり、目的を見失ってしまったというものです。端的に言えば、行政主導の運営になっていて、住民らがお客さんとして参加しているというところがかかりました。

では、どうすれば住民ら主体の活動が可能となるのでしょうか。私は色々な人から話を伺っていて、以下の3つが重要ではないかと思っています。まず1つは、「計画やビジョンを自分たちでつくり、目的を共有する」ことです。その活動を何のためにやっているのかを議論して共有していないと、何かあったとき（例えば中心人物が退任したりお金が少なくなったりしたとき）に必ず解散の危機を迎えます。2つめは、「活動の効果が見え、やりがいを感じる」ことです。会の活動により川がきれいになったり、物事の仕組みが変わったりしたら、とてもうれしいですね。そして3つめが、「外部から評価される」ことです。どこかから表彰されたり、権威ある人から評価されたりすることももちろんよいですが、そんな大げさなことでもなく、活動をしていない近所の人からお礼を言われたりするだけでもよいかもしれません。そんなことが積み重なって、主体性が生まれると私は思います。

環境フォーラム湖東は、私がヒアリングした会の中では、会員が人と人、地域と地域の「つながり」の必要性を認識し、主体的な活動展開を行っている数少ない組織の1つだと思います。しかし今後はさらに、無関心層や若い世代への浸透など、活動をどう広めていくかが課題になってくると思います。私は最近、環境保全のことだけでなく、介護の問題やうつ病の増加、野宿者問題など、様々な現代の問題を解決する1つの鍵が「つながり」ではないかと思っています。「つながり」の意義を理解している環境フォーラム湖東の皆さんだからこそ、伝えられることがあります。さらなるご活躍を期待しています。



滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
総合解析部門 佐藤 祐一

## 環境フォーラム湖東からのお知らせ

# エコサロン7

### 環境フォーラム湖東 たなぼた交流会

エコサロンは琵琶湖のほとり、湖東地域で環境に関心のある人々をつなぐネットワーク団体「環境フォーラム湖東」の交流会です。

環境問題に関心・興味のある方、取り組んでいる方、ゆっくりお茶でも飲みながら、語り合いませんか？思わぬ発見、出会いがあって、まさに「棚からぼたもち！」のひとときです！

平成22年11月26日（金）  
19:00～21:00

「環境に配慮した山作り」大滝山林組合 樋栄浩之氏  
「低炭素社会実現に向けて」滋賀県温暖化対策課 奥田一臣氏

場 所：湖東合同庁舎サークル室  
持ち物：マイコップ・マイ箸  
参加費：300円（お茶・お菓子代）  
**差し入れ大歓迎！**

申し込み・問合せ先 環境フォーラム湖東!!  
〒522-0071 滋賀県彦根市元町4-1 湖東環境・総合事務所環境課  
TEL0749-27-2255 FAX0749-27-1688 E-mail info@f-koto.org

- 環境フォーラム湖東団体会員  
湖東地域農業センター  
彦根市環境保全指導者連絡会議  
エコグループ・アイ  
粟のまちエコライフ  
彦根町さわやかまちづくり推進会議  
環境学び舎のたね  
グラウンドワーク甲良  
宇曾川水系を見守る会  
株式会社平和堂  
ひこね自転車生活をすすめる会  
リサイクルステーション  
夏原工業株式会社  
NPO協賛会（太陽光発電者の会）  
彦根市PTA連絡協議会 おやじの会  
滋賀県自然環境保全・学習ネットワーク湖東フィールドグループ
- 高宮の自然環境とほたるを守る会  
彦根市PTA連絡協議会  
彦根市雨山・護林会  
彦根町消費学習グループ  
犬上川を豊かにする会  
快速環境づくりをすすめる会  
NPO芥川  
芥川自然観察の会  
彦根自然観察の会  
（社）滋賀県環境保全協会  
（社）彦根青年会議所  
太田川「夢の会」  
株式会社センター  
ガラス工芸エヴァグリーン
- 環境フォーラム湖東特別会員  
滋賀県 彦根市 東近江市 彦根町 豊郷町 甲良町 多賀町



お問い合わせ先：  
環境フォーラム湖東事務局  
（湖東環境・総合事務所環境課）  
TEL0749-27-2255 E-Mail info@f-koto.org

### 湖東地域環境シンポジウム講演

## 「ホテルが教えてくれる私の町の環境」

11/13  
(土)

11:00 開会式・ミニコンサート  
出演 日本よし笛の会

11:20 講演  
講師 金尾滋史さん  
(多賀町立博物館学芸員)

13:30～16:00 X'masグッズ&  
エコグッズづくり体験

会場・受付 ビバシティ彦根1階センターモール

同時開催  
11/12(金)～19(金)  
ホテル調査結果展示  
湖東の環境活動パネル展  
於：センターモール

主催：環境フォーラム湖東

発行：環境フォーラム湖東（平成22年10月）  
■ 〒522-0071  
■ 彦根市元町4-1 湖東環境・総合事務所環境課内  
■ TEL 0749-27-2255 ■ FAX 0749-27-1688  
■ URL <http://www.f-koto.org/>  
■ E-Mail [info@f-koto.org](mailto:info@f-koto.org)

### 環境フォーラム湖東では新規会員を募集しています

すでに環境に関する活動をされている方や、ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、企業・市民団体のみならず、どなたでも参加していただけます。まずはお気軽に、左記事務局までご連絡ください。環境フォーラム湖東に関する詳しい情報をご連絡いたします。